

# 親子関係が達成動機に与える影響について

藤川 優香

**要旨：**本研究は親からの期待と親からの期待の受け止め方が達成動機にどう影響するのかについて検討した。西日本の大学の大学生 292 名（女性 144 名，男性 148 名）を対象に調査を行い，父親からの期待とその期待の受け止め方，達成動機，母親からの期待とその受け止め方と達成動機のパス解析を実施したところ，父親からの期待と母親からの期待で子どもの受け止め方は違うことが示唆された。また，本研究からは母親からの進路に関する期待や願望といった特定領域への期待を重点的に感じるにより負担感が高まり，より自分自身の中で立てた目標を達成したいと考えるようになることが示唆された。父親からの期待については良い子になってほしいという期待を肯定的に受け止めた者は個人的に達成したいという考えと挑戦したい成功したいと考えるようになることが示唆された。そして父母いずれにしても進路に対する期待は負担感を高めることが示唆された。

## 第 1 章 問題と目的

### 第 1 節 親からの期待

#### 第 1 項 親からの期待の影響と問題の所在

子どもの発達にとって，親の存在は大きい。子どもの生涯で親との関わりは何かを選択する際に重要な意味を持つ。その中でも親からの期待は重要な役割を担っていると考える。幼児期から青年期を通じて，親からの期待や願いが子どもの学業成績や職業選択，パーソナリティ，学校の適応などに対して影響を持つことは，多くの研究で見出されている（春日・宇都宮・サトウ，2014）。

#### 第 2 項 親からの期待についての研究動向

親から子への期待はいつから始まるのだろうか。各家庭によって様々であると考えられるが，田村（1967）は，早い家庭では子どもが3歳になると，早くもその子の将来について親たちは悩み始めると述べている。ここでの親の悩みは，子どもの将来に対する期待である。親から子への期待には，トイレトレーニングや，手洗いやうがいといった日常の基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせたいといった身近で，日常生活と密接に関わりのある子への期待もあれば，将来は医者や弁護士になってほしい，何か偉大な事を成し遂げて欲しいといったようなより長期的な視点で，抽象的な期待もあるだろう。また，親からの期待は，親と子の関係性によっても異なるだろう。例えば，子どもが病気や事故で九死に一生を得た経験が過去にある親たちは，子どもが生きているだけでありがたいと感じるかもしれない。その一方で，子どもが生きているのは当然だと思っている親は，子どもが単に生きているだけでは喜ばないだろう。

このように親から子どもに対する期待は，身近でより具体的なものから，長期的なもの，抽象的なものまで，次元の異なる期待が広がりをもって複数存在していると考えられるが，本研究では，親からの長期的・抽象的な期待に特に焦点を当てる。ここでの，親からの長期的・抽象的な期待とは，法的・社会的に正常で承認される行為を行っても，その行為に対して欲求充足させる報酬が提供されないような期待である（安倍，1978）。

近年，親がどのような領域に期待するのかという研究だけでなく，期待されている領域を子どもがどう認知するのかということが検討されるようになってきた。庄司・藤田（2000）は，大学生が想起した中学生の頃の親の養育態度と親の期待の関連について検討し，子どもが認知している親の養育態度によって親がどんな領域に期待していると思うかの認知が異なることを明らかにした。

伊藤 (2012) は、子どもは親が自身に対して受容的でないと認知すると、それを補うために親の期待に応えることで、親からの受容を手に入れようとするために親から求められる目標を達成しようとする行動に従事するが、そのような場合には負担感も感じやすくなると述べている。また、高木 (2006) は、親子双方に期待についてのインタビューを行った。その結果、親の期待についての親子それぞれの認識がずれていることは必ずしも問題ではなく、場合によっては、ずれていても平穏な家族関係を維持できることがあると述べている。また、子どもが親との関係に満足している場合、子どもは親からの言葉を否定的に解釈せず、親からの期待は子どもの励みになるなどの良い影響をもたらすと思われる。一方、親との関係に不満を抱えている子どもは、親の意図を深読みして否定的に解釈をすることが示された。これらを総合すると、子どもが感じる親子関係の質は、親からの期待とその期待に対する子どもの受け止め方に影響を及ぼすと考えられる。そこで本研究ではこれまでの多くの親子の研究を元に親からの期待と子の受け止め方について検討する。

## 第 2 節 親からの期待と達成動機

### 第 1 項 達成動機

本研究では、親からの期待とその期待に対する子の受け止め方を、以下に述べるような動機の観点の踏まえて検討を行う。人は、物事を最後までやり遂げたい、困難なことにも挑戦し、成功させたいという動機を持っている。これを「達成動機」というが、達成動機は Murray (1938) が人間の社会的動機の 1 つとして研究をしたのが嚆矢であり、その後、我が国でも達成動機の研究が行われてきた。この社会的動機に使用される「動機」という言葉は研究者の間で「動因」「要求」「欲求」と不明確な区別がなされたまま使用されている事が多い。要求は一次的 (基本的) 要求と二次的要求に分けられ、前者は渇き、空腹、睡眠、性などのように生命の維持や種の保存のために身体的・生理的に必須不可欠のものを求めようとする状態である。一方、後者は貨幣に対する欲求のように学習によって獲得されたものである。要求の代用語として「欲求」は使われることがあり、主に要求より広義に用いられる。さらに、動因や動機も用いられ、一次的なものに対しては前者 (動因) を、二次的なものに対しては後 (動機) をあてがわれることが多い。それに関して Murray (1938) は、要求を「ある客観的そして主観的事実を説明するための概念」と記している。この際の「主観的事実」とは内的な経験をさし、「客観的事実」とは観察可能な行動をさす。「欲求」や「動機」は「…したい」という主観的な心の状態を表す言葉として日常的に使われるが、その存在は第三者にとってはあくまで外顕的な行動からしか推測できない。このため「…するのは…したい動機があるから」という説明と「…という動機が存在は人が…することからわかる」という推測は同義反復に陥ることになる。この点に関して Murray (1938) は要求について厳格な操作的定義をしておらず曖昧な状態で使用している。このように「動機」「動因」「要求」「欲求」は明確な区別がされないまま使用される事が多いため、本研究では「動機」という言葉を主として用い、動機の細部に関して言及する場合には「欲求」という言葉を用いる。

林・山内 (1978) は、達成動機とは「困難なことをうまく成し遂げたい、競争自体で人より優れた成績を得た

表 1 Murray の社会的動機リスト

屈従	外的な力に受動的に服従すること	傷害回避	苦痛、肉体的傷害、病気、死を回避すること
達成	難しいことを成し遂げること	屈辱回避	屈辱を回復すること
親和	自分の味方になる人に近寄り、喜んで協力したり。好意を交換すること	養護	無力な者…の要求に同情と満足を与えること
攻撃	力づくで反対を克服すること	秩序	ものを整然とさせること
自律	自由になり、束縛を振り切り監禁から抜け出すこと	遊戯	「面白さ」のみのために、それ以外の何ものも目的とせず、行動すること
中和	再び努力することによって失敗を克服し、償うこと	拒絶	負のエネルギーの充当された対象から遠ざかること
防御	暴力、批判、避難から自己を守ること	感性	感性的印象を求め、愉しむこと
恭順	優越している人に敬服し、支持すること	性	性的関係を形成し促進すること
支配	自分の人間的環境を統制すること	求護	味方の同情的な助けをかり自分の要求を満足させること
顕示	印象づけること	理解	一般的な質問を出したり、解答したりすること

い、優れた学業をあげたい、というようないわゆる何らかの価値的目標に対して自己の力を発揮して障害に打ち克ち、できるだけよくその目標を成し遂げようとする動機または要求」と述べている。また、宮本（1993）は、達成動機とは、「その文化において優れた目標であるとされる事柄に対して、卓越した水準でそれを成し遂げようとする意欲である」と述べている。一方、堀野（1987）は、達成動機を Murray（1938）が述べているような社会的・文化的価値のあるものを達成したいという欲求である「社会的達成欲求」という1側面だけではなく、新たに個人の積極的価値に基づく達成への欲求である「個人的達成欲求」と、挑戦したい成功したいという欲求である「挑戦・成功欲求」の2つの側面を含む3側面からなると述べ、達成動機の3つの構成因子を分析し、達成動機を多次元概念として捉えることができると指摘した。このように様々な達成動機の定義があるが達成動機をより多次元的に捉えるために本研究では堀野（1987）の定義を元に研究を行う。

達成動機の研究では周りからのサポート（ソーシャルサポート）との関連についての研究が多く行われている。青野・森（2007）は、兄弟からのサポートが「個人的達成動機」を高め、友人からのサポートが「社会的達成動機」を低くし、母親からのサポートが「競争的達成動機」を高めることを明らかにした。また、中村（2016）は、親子でルールが成り立っている上での受容的な態度や自主性の尊重が達成動機にいい影響を及ぼしていることを示した。

## 第2項 親からの期待と達成動機の研究

第1項で述べた研究から達成動機は周りの人からのサポートによって影響を与えられると考えられる。しかし、周りからのサポートだけではなく相手からの「期待」も達成動機と関連があるのではないかと考えられる。松本・渡辺（1983）は、人は幼い頃から親から期待を受けて、それに応えることで成長し、自身の目標を達成するには自分自身に対する期待とともに他者からの期待が必要であると述べている。

## 第3節 目的

これまでの研究は、親からの期待が達成動機にどのように影響するか検討してきた。しかし親からの期待を子どもがどのように受け止めるのかということも、達成動機に影響を与えていると考えた。そこで、本研究は3つの変数の影響について検討する。まず親からの期待と子どもの受け止め方について検討する。具体的には、人間性・進路・良い子という要素が、子どもの受け止め方（肯定・反発・負担）にどのように影響を及ぼすのか分析する。次に、子どもの受け止め方が達成動機にどのように影響するのか、肯定的な受け止めは高い達成動機に結びつくという仮説を検証する。

## 第2章 方法

**調査対象者：**西日本の大学の大学生 312 名に調査を行い、回答に不備のあった 19 名を除く 292 名（女性 144 名、男性 148 名）を最終的な分析対象とした。平均年齢 20.6 歳（SD = 3.68 歳）であった。

**調査実施時期：**調査は 2019 年 6 月から 7 月に講義の後の時間を利用して行われた。

**調査内容：**本調査は、学術目的の研究であり、参加は任意であること、参加した後でも中断することができること、個人情報保護のためすべて統計的に処理した後にシュレッダーにかけることを口頭または文章にて説明した。

### 質問紙の構成

**達成動機測定尺度：**達成動機の尺度として、堀野（1987）の「社会的達成欲求」と「個人的達成欲求」そして「挑戦・成功欲求」の3つの下位尺度からなる達成動機測定尺度は 23 項目を使用した。自分自身について「1、全くあてはまらない」～「7、非常によくあてはまる」の7件法で回答を求めた。教示は、『いつものあなたの達成動機に関する以下の項目について当てはまるものを「1 まったくそう思わない」～「7 非常にそう思う」の中から当てはまる数字に○をつけてください』であった。

**親から感じた期待：**春日・宇都宮（2011）により作成され、「良い子期待」と「進路期待」そして「人間性期待」の3つの下位尺度からなり、大学入学時までに親からどのように期待を受けてきたのかに関する 34 項目の尺度である。回答様式は、各項目について「当てはまらない」「やや当てはまらない」「どちらでもない」「やや当てはまる」「当てはまる」の5件法で実施した。また、父親、母親で分けて調査を実施した。

期待に対する反応様式：春日・宇都宮（2011）により作成され、「肯定反応」と「負担反応」そして「反発反応」の 3 つの下位尺度からなり、親から受けてきたと感じた期待に対してどのように感じたか、行動したかに関する 37 項目の尺度である。回答様式は、各項目について「当てはまらない」「やや当てはまらない」「どちらでもない」「やや当てはまる」「当てはまる」の 5 件法で実施した。また、父親、母親で分けて調査を実施した。

フェイスシート：回答者の性別・年齢について回答を求めた。

#### 倫理的配慮

質問紙のフェイスシートに研究の目的は大学生全体の傾向について把握することであり、個人の回答を問題にしたり評価したりすることはないこと。研究は統計的に処理され、研究目的以外では公表されることがないこと、研究終了後、質問紙はシュレッターをした後に廃棄すること、調査への参加は自由であり、調査に参加しないことにより学業成績への影響等の不利益はないこと、調査の途中でも回答をやめることができることを調査前に説明書を配り、口頭でも説明を行った。そして、同意する場合にのみ調査に参加してもらった。また、無記名での回答を求めた。最終的には回答済みの質問紙を提出をもって研究協力への合意とみなした。

## 第 3 章 結果

### 第 1 節 尺度の因子的妥当性の検討

#### 第 1 項 達成動機測定尺度について

達成動機測定尺度（全 23 項目）について主因子法で因子を抽出し、プロマックス回転を行った。そして、因子の解釈可能性を考慮したところ堀野（1987）と同じ 3 因子として解釈するのが妥当であると判断した。そして因

表 2 達成動機測定尺度の因子分析：プロマックス回転後の因子負荷量

	I	II	III	M	SD
3 社会の高い地位を目指すことは非常に重要だと思う	<b>.871</b>	.033	-.262	4.63	1.48
2 難しい事を上手くやり逃げたと人に言いたい	<b>.665</b>	-.096	.000	4.87	1.46
4 重要な人々と知り合いになれるように努める	<b>.636</b>	.101	-.068	4.47	1.42
1 周りの人々が賞賛してくれるようなすばらしいことをしたい	<b>.624</b>	.016	.109	5.19	1.41
19 世に出て成功したいと強く願っている	<b>.591</b>	.213	-.042	4.59	1.55
5 技術や努力が必要であると一般に考えられていることをしたい	<b>.587</b>	-.054	.168	4.76	1.32
9 物事は他の人より上手にやりたい	<b>.580</b>	-.240	.274	5.15	1.31
6 私の人生の 1 つの目的は立派なことを成し遂げて家族に喜んでもらうことである	<b>.495</b>	-.005	.153	4.32	1.61
22 私は他の会社で人に仕えるよりは 50% の破産の危険性があっても自分で事業を経験したい。	.048	<b>.813</b>	-.301	2.87	1.59
18 他人から与えられたことをするより失敗の可能性が 50% あっても自分で計画してやることの方が好きだ	-.055	<b>.776</b>	.036	4.00	1.52
23 何か新しいことをチャレンジするのは好きだ	-.074	<b>.668</b>	.182	4.58	1.55
17 自分のことをもう・・・だからと考えるより、まだ・・・と考えるほうが多い	-.073	<b>.580</b>	-.003	4.00	1.59
16 決定的に失敗かどうかわかる前から手を引くのは絶対にいやだ	-.140	<b>.539</b>	.319	4.14	1.60
20 他の人が以前に失敗していることでもやりたい	.169	<b>.537</b>	.046	4.11	1.49
21 何かの仕事や職業または専門の分野で第一人者になりたい	.219	<b>.463</b>	.040	3.73	1.59
15 今日一日何をしようか考えることは楽しい	-.027	<b>.442</b>	.188	4.47	1.57
12 なにかを上手くやるためには難しいことでも時間をかけてやる	-.166	.086	<b>.794</b>	4.93	1.30
11 何でも手がけたことには最善を尽くしたい	.004	-.124	<b>.760</b>	5.36	1.29
10 いつも何か目標を持ちたい	.172	.137	<b>.545</b>	4.82	1.54
13 自分の好きなことは上手くなるためには努力する	.096	-.052	<b>.530</b>	5.74	1.13
14 何か小さいことでも自分にしか出来ないことをしたいと思う	.075	.120	<b>.471</b>	5.08	1.40
7 何か非常に社会的に有意義なことをしたい	.244	.114	<b>.449</b>	4.73	1.41
因子間相関	I	II	III		
I 社会的達成欲求	-	.488	.554		
II 挑戦・成功欲求		-	.635		
III 個人的達成欲求			-		
削除項目					
8 他の人が難しいようなパズルや問題を解いてみたい					

子負荷量 .35 以上を示さなかった 1 項目を除外した。因子分析の結果を表 2 に示した。第 I 因子は「社会の高い地位を目指すことは非常に重要だと思う」など 8 項目となり、第 II 因子は「なにかを上手くやるためには難しいことでも時間をかけてやる」など 8 項目となり、第 III 因子は「何かの仕事や職業または専門の分野で第一人者になりたい」などの 6 項目となった。これは、堀野 (1987) の結果と同じであったため、第 I 因子を「社会的達成欲求」、第 II 因子を「挑戦・成功欲求」、第 III 因子を「個人的達成欲求」とした。また、この 3 因子についてクロンバックの  $\alpha$  係数を求めたところ、第 I 因子は  $\alpha = .85$ 、第 II 因子は  $\alpha = .85$ 、第 III 因子は  $\alpha = .82$  と十分な信頼性を示した。

## 第 2 項 母親から感じた期待尺度について

母親から感じた期待尺度 (全 34 項目) について主因子法で因子を抽出し、プロマックス回転を行った。そして、因子の解釈可能性を考慮したところ春日・宇都宮 (2011) と同じ 3 因子として解釈するのが妥当であると判断した。そして因子負荷量 .35 以上を示さなかった 3 項目を除外した。因子分析結果を表 3 に示した。

表 3 母親から感じた期待尺度の因子分析：プロマックス回転後の因子負荷量

	I	II	III	M	SD
18 人に優しくしてほしい	<b>.810</b>	.035	-.179	4.16	0.93
14 思いやりを持ってほしい	<b>.800</b>	-.050	-.121	4.20	0.88
22 挨拶が出来る人間になってほしい	<b>.749</b>	.032	-.108	4.13	0.95
7 正直でいてほしい	<b>.719</b>	.016	-.134	4.07	0.96
8 よい人間関係を作ってほしい	<b>.685</b>	.027	-.088	4.29	0.88
32 健康に育ってほしい	<b>.610</b>	-.094	-.069	4.54	0.75
10 自分の意見を言える人になってほしい	<b>.599</b>	-.037	.251	3.64	1.12
28 くじけず、負けない人間になってほしい	<b>.543</b>	.165	.183	3.71	1.04
19 自分のことは自分で責任を持ってほしい	<b>.535</b>	.149	-.056	4.10	0.90
15 立派な社会人になってほしい	<b>.533</b>	.343	-.096	4.10	0.93
31 自分の満足の行く生き方をしてほしい	<b>.525</b>	-.292	.165	4.22	1.00
33 自分のやりたい仕事を見つけてほしい	<b>.513</b>	-.258	.279	4.06	1.00
6 人を外見で判断しない人になってほしい	<b>.507</b>	-.085	.135	3.41	1.13
12 何事にも積極的になってほしい	<b>.429</b>	.183	.322	3.59	1.12
4 倫理観を持ってほしい	<b>.428</b>	.108	.000	3.79	1.07
24 時間を守れる人間になってほしい	<b>.395</b>	.139	.031	3.90	0.99
2 いい高校・大学に行ってほしい	-.063	<b>.825</b>	.004	3.53	1.36
27 良い成績をとってほしい	-.119	<b>.824</b>	.041	3.61	1.26
21 勉強ができる子であってほしい	-.117	<b>.816</b>	.050	3.39	1.33
3 いい企業に就職してほしい	-.077	<b>.738</b>	.104	3.49	1.32
13 業績の良いところに就職してほしい	-.082	<b>.646</b>	.186	3.25	1.21
29 賢くあってほしい	.091	<b>.639</b>	.157	3.63	1.08
11 安定した職業についてほしい	.187	<b>.595</b>	-.181	4.03	1.11
20 将来のため、しっかり勉強してほしい	.297	<b>.577</b>	-.033	4.01	1.06
16 親の言う事をきいてほしい	.021	<b>.530</b>	.018	3.37	1.21
26 真面目でいてほしい	.358	<b>.383</b>	-.113	3.79	1.03
17 専門的な職業についてほしい	-.169	.237	<b>.494</b>	2.45	1.20
5 芸術面で活躍してほしい	-.024	.004	<b>.484</b>	2.12	1.22
9 夢を追い続けてほしい	.437	-.166	<b>.483</b>	3.44	1.24
1 何に関しても 1 番になってほしい	-.073	.377	<b>.468</b>	2.18	1.26
25 スポーツで活躍してほしい	-.045	.092	<b>.383</b>	2.19	1.28
因子間相関	I	II	III		
I 母親良い子期待	-	.291	.328		
II 母親進路期待		-	.342		
III 母親人間性期待			-		
削除項目					
23 質素でいてほしい					
30 多くの友人関係を築いてほしい					
34 良い伴侶を見つけてほしい					

第 I 因子が「人に優しくしてほしい」など 16 項目となり、第 II 因子は「いい高校・大学に行ってほしい」など 9 項目となり、第 III 因子は「スポーツで活躍してほしい」などの 4 項目となった。これは、春日・宇都宮 (2011) の結果と同じであったため、第 I 因子を「母親良い子期待」、第 II 因子を「母親進路期待」、第 III 因子を「母親人間性期待」とした。また、この 3 因子についてクロンバックの  $\alpha$  係数を求めたところ、第 I 因子は  $\alpha = .89$ 、第 II 因子は  $\alpha = .90$  と十分な信頼性を示したが、第 III 因子は  $\alpha = .52$  と低い結果となった。

### 第 3 項 母親の期待に対する反応様式について

母親の期待に対する反応様式 (全 37 項目) について主因子法で因子を抽出し、プロマックス回転を行った。そして、因子の解釈可能性を考慮したところ春日・宇都宮 (2011) と同じ 3 因子として解釈するのが妥当であると判断した。そして因子負荷量 .35 以上を示さない 1 項目を除外した。因子分析結果を表 4 に示した。第 I 因子が

表 4 母親の期待に対する反応様式の因子分析：プロマックス回転後の因子負荷量

	I	II	III	M	SD
20 期待されることで背中を押されるように思った	<b>.853</b>	-.003	.182	2.83	1.19
15 期待されることでやる気が出た	<b>.824</b>	-.030	.153	2.84	1.16
10 期待する親に感謝している	<b>.822</b>	-.109	.157	3.28	1.17
21 期待されることで背中を押されるように思う	<b>.810</b>	-.061	.134	2.83	1.17
9 期待されて励みに感じた	<b>.806</b>	-.089	.048	3.13	1.13
22 期待してくれて感謝している	<b>.777</b>	-.063	.133	3.14	1.20
34 喜んで期待に応えた	<b>.735</b>	.024	.053	2.64	1.10
4 期待されて嬉しいと感じた	<b>.732</b>	-.038	.091	3.16	1.15
8 期待に応えられるよう、頑張ろうと思った	<b>.682</b>	.018	-.234	3.39	1.13
25 期待に応えられるよう頑張った	<b>.679</b>	.037	-.252	3.27	1.15
29 自分なりにできる努力をした	<b>.500</b>	-.131	-.072	3.69	1.04
1 期待を裏切ってはいけなと感じた	<b>.489</b>	.204	-.301	3.33	1.30
37 意識するまでもなく、自然と身についていた	<b>.477</b>	.024	.369	3.12	1.10
33 期待をしている親と話し合った	<b>.468</b>	.104	.082	2.60	1.28
13 期待される事を当然と感じた	<b>.440</b>	.198	.177	2.60	1.25
16 期待されることを嫌だと感じた	-.129	<b>.847</b>	.078	2.61	1.27
11 期待されることに疲れた	.003	<b>.804</b>	-.054	2.45	1.24
17 期待する親に対して悪い印象を持った	-.072	<b>.763</b>	.083	2.11	1.16
7 期待を重荷だと感じた	-.025	<b>.748</b>	-.165	2.60	1.31
14 放っておいてほしいと思った	-.220	<b>.728</b>	.184	2.90	1.26
3 期待されることでやる気を失った	-.097	<b>.722</b>	.092	2.27	1.21
5 自分に口出ししないで欲しいと思った	-.090	<b>.709</b>	.183	3.21	1.19
18 そんな事言われなくても分かっていると思った	-.074	<b>.653</b>	.111	3.13	1.31
2 期待されてつらかった	.051	<b>.652</b>	-.197	2.51	1.34
6 親に自分の何が分かるのか、と思った	-.221	<b>.646</b>	.070	2.86	1.31
26 どうすべきかわからず、悩んでいた	.196	<b>.616</b>	-.049	2.72	1.30
24 期待を無視するような行動をした	.033	<b>.611</b>	.230	2.42	1.30
32 ただ親の言うとおりに行動した	.138	<b>.554</b>	-.049	2.01	1.11
12 親を見返してやろうと思った	.129	<b>.467</b>	-.018	2.27	1.27
19 結果を出せなかったらどうしようと不安だった	.258	<b>.458</b>	-.236	2.88	1.39
23 期待に応えるために、無理をした	.297	<b>.454</b>	-.267	2.32	1.22
31 期待していないほうの親と相談した	.103	<b>.400</b>	.242	1.78	1.03
35 気にせず、普通に生活した	-.020	-.114	<b>.534</b>	3.57	1.18
28 期待に応えたいと思ったが、特に努力はしていなかった	.109	.367	<b>.513</b>	2.67	1.19
30 自分のやりたいことを、やりたいようにやった	.316	-.038	<b>.426</b>	3.80	0.98
27 期待に応えようと思わず、自分の為に努力した	.222	.203	<b>.378</b>	3.19	1.2
因子間相関	I	II	III		
I 母親肯定反応	-	.047	-.249		
II 母親負担反応		-	-.278		
III 母親反発反応			-		
削除項目					
36 自分がとるべき行動を考え、その様に振舞っていた					

「期待されることで背中を押されるように思った」など15項目となり、第Ⅱ因子は「期待されることを嫌だと感じた」など17項目となり、第Ⅲ因子は「気にせず、普通に生活した」などの4項目となった。これは、春日・宇都宮（2011）の結果と同じであったため、第Ⅰ因子を「母親肯定反応」、第Ⅱ因子を「母親負担反応」、第Ⅲ因子を「母親反発反応」とした。また、この3因子についてクロンバックの $\alpha$ 係数を求めたところ、第Ⅰ因子は $\alpha = .92$ 、第Ⅱ因子は $\alpha = .92$ と十分な信頼性を示したが、第Ⅲ因子は $\alpha = .51$ と低い結果となった。

#### 第4項 父親から感じた期待尺度について

父親から感じた期待尺度（全34項目）について主因子法で因子を抽出し、プロマックス回転を行った。そして、因子の解釈可能性を考慮したところ春日・宇都宮（2011）と同じ3因子として解釈するのが妥当であると判断した。因子分析結果を表5に示した。第Ⅰ因子が「思いやりを持ってほしい」など17項目となり、第Ⅱ因子は「いい高校・大学に行ってほしい」など8項目となり、第Ⅲ因子は「芸術面で活躍してほしい」などの5項目となった。これは、春日・宇都宮（2011）の結果と同じであったため、第Ⅰ因子を「父親良い子期待」、第Ⅱ因子を「父親進路期待」、第Ⅲ因子を「父親人間性期待」とした。また、この3因子についてクロンバックの $\alpha$ 係数を求

表5 父親から感じた期待尺度の因子分析：プロマックス回転後の因子負荷量

	I	II	III	M	SD
14 思いやりを持ってほしい	<b>.917</b>	-.081	-.046	3.71	1.18
18 人に優しくしてほしい	<b>.906</b>	-.132	-.017	3.68	1.18
31 自分の満足の行く生き方をしてほしい	<b>.843</b>	-.081	-.128	4.01	1.13
10 自分の意見を言える人になってほしい	<b>.823</b>	-.018	.024	3.65	1.23
7 正直でいてほしい	<b>.807</b>	.030	.001	3.82	1.20
8 よい人間関係を作してほしい	<b>.781</b>	.085	-.083	3.87	1.16
22 挨拶が出来る人間になってほしい	<b>.772</b>	-.055	.014	3.86	1.13
33 自分のやりたい仕事を見つけてほしい	<b>.761</b>	.067	-.083	3.91	1.17
6 人を外見で判断しない人になってほしい	<b>.744</b>	-.194	.202	3.27	1.31
32 健康に育ってほしい	<b>.737</b>	.116	-.218	4.22	1.05
24 時間を守る人間になってほしい	<b>.723</b>	.036	-.031	3.74	1.16
28 くじけず、負けない人間になってほしい	<b>.690</b>	.004	.182	3.64	1.20
30 多くの友人関係を築いてほしい	<b>.681</b>	.013	.109	3.64	1.22
4 倫理観を持ってほしい	<b>.635</b>	.132	-.064	3.63	1.24
9 夢を追い続けてほしい	<b>.627</b>	-.148	.230	3.37	1.35
12 何事にも積極的になってほしい	<b>.595</b>	.075	.228	3.40	1.22
19 自分のことは自分で責任を持ってほしい	<b>.561</b>	.195	-.100	3.98	1.09
15 立派な社会人になってほしい	<b>.444</b>	.397	-.053	3.89	1.18
34 良い伴侶を見つけてほしい	<b>.388</b>	.179	.190	3.04	1.29
26 真面目でいてほしい	<b>.365</b>	.306	.115	3.56	1.22
2 いい高校・大学に行ってほしい	-.087	<b>.850</b>	.018	3.45	1.42
21 勉強ができる子であってほしい	-.104	<b>.842</b>	.035	3.23	1.34
3 いい企業に就職してほしい	-.018	<b>.803</b>	-.023	3.51	1.36
27 良い成績をとってほしい	-.096	<b>.795</b>	.123	3.43	1.29
13 業績の良いところに就職してほしい	-.088	<b>.774</b>	.093	3.37	1.34
11 安定した職業についてほしい	.081	<b>.766</b>	-.148	3.78	1.28
20 将来のため、しっかり勉強してほしい	.225	<b>.705</b>	-.144	3.80	1.27
29 賢くあってほしい	.166	<b>.659</b>	.035	3.48	1.24
5 芸術面で活躍してほしい	.012	-.158	<b>.690</b>	1.97	1.16
17 専門的な職業についてほしい	-.082	.122	<b>.605</b>	2.43	1.29
1 何に関しても1番になってほしい	-.058	.316	<b>.573</b>	2.39	1.34
25 スポーツで活躍してほしい	-.055	.058	<b>.552</b>	2.41	1.40
16 親の言う事をきいてほしい	.001	.295	<b>.385</b>	3.03	1.31
23 質素でいてほしい	.249	-.071	<b>.372</b>	2.79	1.21
因子間相関	I	II	III		
I 父親良い子期待	-	.541	.470		
II 父親進路期待		-	.547		
III 父親人間性期待			-		

めたところ、第 I 因子は  $\alpha = .96$ 、第 II 因子は  $\alpha = .93$ 、第 III 因子は  $\alpha = .75$  と十分な信頼性を示した。

#### 第 5 項 父親の期待に対する反応様式について

父親の期待に対する反応様式 (全 37 項目) について主因子法で因子を抽出し、プロマックス回転を行った。そして、因子の解釈可能性を考慮したところ春日・宇都宮 (2011) と同じ 3 因子として解釈するのが妥当であると判断した。そして負荷量 .35 以上を示さない 1 項目「28. 期待に応えたいと思ったが、特に努力はしていなかった」を除外した。結果を表 6 に示した。第 I 因子が「期待されることでやる気が出た」など 16 項目となり、第 II 因子は「期待されることに疲れた」など 16 項目となり、第 III 因子は「自分のやりたいことを、やりたいようにやった」などの 3 項目となった。これは、春日・宇都宮 (2011) の結果と同じであったため、第 I 因子を「父親肯

表 6 父親の期待に対する反応様式の因子分析：プロマックス回転後の因子負荷量

	I	II	III	M	SD
15 期待されることでやる気が出た	<b>.909</b>	-.044	.039	2.71	1.20
9 期待されて励みに感じた	<b>.869</b>	-.099	.044	2.85	1.25
10 期待する親に感謝している	<b>.850</b>	-.136	.085	3.04	1.28
21 期待されることで背中を押されるように思う	<b>.847</b>	-.107	.035	2.75	1.29
34 喜んで期待に応えた	<b>.844</b>	-.082	.041	2.59	1.16
4 期待されて嬉しいと感じた	<b>.838</b>	-.067	-.016	2.92	1.23
20 期待されることで背中を押されるように思った	<b>.835</b>	-.091	.067	2.79	1.29
22 期待してくれて感謝している	<b>.835</b>	-.101	.109	3.09	1.24
8 期待に応えられるよう、頑張ろうと思った	<b>.812</b>	.008	-.107	3.11	1.25
25 期待に応えられるよう頑張った	<b>.739</b>	.068	-.048	3.09	1.20
1 期待を裏切ってはいけなと感じた	<b>.578</b>	.281	-.257	2.81	1.38
33 期待をしている親と話し合った	<b>.527</b>	.130	.038	2.31	1.27
29 自分なりにできる努力をした	<b>.509</b>	.045	.397	3.64	1.09
37 意識するまでもなく、自然と身についていた	<b>.450</b>	.124	.357	2.95	1.14
13 期待される事を当然と感じた	<b>.430</b>	.307	.070	2.52	1.23
36 自分がとるべき行動を考え、その様に振舞っていた	<b>.361</b>	.155	.216	3.24	1.20
11 期待されることに疲れた	.006	<b>.861</b>	-.065	2.36	1.24
16 期待されることを嫌だと感じた	-.083	<b>.843</b>	-.006	2.47	1.27
14 放っておいてほしいと思った	-.299	<b>.839</b>	.141	2.80	1.28
3 期待されることでやる気を失った	-.048	<b>.828</b>	-.027	2.18	1.16
6 親に自分の何が分かるのか、と思った	-.204	<b>.822</b>	.185	2.64	1.34
7 期待を重荷だと感じた	.051	<b>.800</b>	-.087	2.45	1.31
5 自分に口出ししないで欲しいと思った	-.172	<b>.798</b>	.230	2.80	1.35
2 期待されてつらかった	.074	<b>.791</b>	-.150	2.26	1.28
17 期待する親に対して悪い印象を持った	-.130	<b>.764</b>	-.073	2.18	1.27
18 そんな事言われなくても分かっていると思った	-.076	<b>.724</b>	.152	2.91	1.33
12 親を見返してやろうと思った	.086	<b>.641</b>	.050	2.33	1.28
24 期待を無視するような行動をした	.068	<b>.580</b>	.087	2.33	1.25
23 期待に応えるために、無理をした	.349	<b>.537</b>	-.197	2.28	1.22
26 どうすべきかわからず、悩んでいた	.350	<b>.506</b>	-.100	2.55	1.30
32 ただ親の言うとおりに行動した	.184	<b>.490</b>	-.105	1.99	1.15
31 期待していないほうの親と相談した	.116	<b>.446</b>	.098	1.93	1.13
19 結果を出せなかったらどうしようと不安だった	.389	<b>.433</b>	-.195	2.72	1.38
30 自分のやりたいことを、やりたいようにやった	.196	-.046	<b>.705</b>	3.73	1.09
35 気にせず、普通に生活した	-.040	.005	<b>.643</b>	3.51	1.18
27 期待に応えようと思わず、自分の為に努力した	.180	.243	<b>.596</b>	3.25	1.22
因子間相関	I	II	III		
I 父親肯定反応	-	.280	-.033		
II 父親負担反応		-	-.198		
III 父親反発反応			-		
削除項目					
28 期待に応えたいと思ったが、特に努力はしていなかった					



定反応」, 第Ⅱ因子を「父親負担反応」, 第Ⅲ因子を「父親反発反応」とした。また, この3因子についてクロンバックの $\alpha$ 係数を求めたところ, 第Ⅰ因子は $\alpha=.94$ , 第Ⅱ因子は $\alpha=.94$ と十分な信頼性を示したが, 第Ⅲ因子は $\alpha=.68$ と低い結果となった。

## 第2節 各因子の相関分析

相関分析を行った結果を表7に示した。社会的達成欲求と有意な正の相関が見られたのは, 挑戦成功欲求 ( $r=.42, p<.01$ ), 個人的達成欲求 ( $r=.51, p<.01$ ), 母親良い子期待 ( $r=.19, p<.01$ ), 母親進路期待 ( $r=.20, p<.01$ ), 母親人間性期待 ( $r=.20, p<.01$ ), 母親肯定反応 ( $r=.30, p<.01$ ), 父親良い子期待 ( $r=.18, p<.01$ ), 父親進路期待 ( $r=.16, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.25, p<.01$ ), 父親肯定反応 ( $r=.19, p<.01$ )であった。

挑戦成功欲求と有意な正の相関が見られたのは, 個人的達成欲求 ( $r=.63, p<.01$ ), 母親良い子期待 ( $r=.24, p<.01$ ), 母親人間性期待 ( $r=.32, p<.01$ ), 母親肯定反応 ( $r=.32, p<.01$ ), 父親良い子期待 ( $r=.23, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.20, p<.01$ ), 父親肯定反応 ( $r=.24, p<.01$ ), 父親反発反応 ( $r=.16, p<.01$ )であった。

個人的達成欲求と有意な正の相関が見られたのは, 母親良い子期待 ( $r=.30, p<.01$ ), 母親人間性期待 ( $r=.16, p<.01$ ), 母親肯定反応 ( $r=.35, p<.01$ ), 父親良い子期待 ( $r=.32, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.15, p<.01$ ), 父親肯定反応 ( $r=.25, p<.01$ )であった。

母親良い子期待と有意な正の相関が見られたのは, 母親進路期待 ( $r=.38, p<.01$ ), 母親人間性期待 ( $r=.34, p<.01$ ), 母親肯定反応 ( $r=.43, p<.01$ ), 父親良い子期待 ( $r=.69, p<.01$ ), 父親進路期待 ( $r=.37, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.33, p<.01$ ), 父親肯定反応 ( $r=.35, p<.01$ )であった。

母親進路期待と有意な正の相関が見られたのは母親人間性期待 ( $r=.37, p<.01$ ), 母親肯定反応 ( $r=.28, p<.01$ ), 母親負担反応 ( $r=.38, p<.01$ ), 父親良い子期待 ( $r=.36, p<.01$ ), 父親進路期待 ( $r=.54, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.42, p<.01$ ), 父親肯定反応 ( $r=.28, p<.01$ ), 父親負担反応 ( $r=.37, p<.01$ )であった。

母親人間性期待と有意な正の相関が見られたのは, 母親肯定反応 ( $r=.35, p<.01$ ), 母親負担反応 ( $r=.22, p<.01$ ), 父親良い子期待 ( $r=.28, p<.01$ ), 父親進路期待 ( $r=.23, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.57, p<.01$ ), 父親肯定反応 ( $r=.33, p<.01$ ), 父親負担反応 ( $r=.21, p<.01$ )であった。

母親肯定反応と有意な正の相関が見られたのは, 父親良い子期待 ( $r=.43, p<.01$ ), 父親進路期待 ( $r=.24, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.33, p<.01$ ), 父親肯定反応 ( $r=.78, p<.01$ ), 父親反発反応 ( $r=.21, p<.01$ )であった。

母親負担反応と有意な正の相関が見られたのは, 父親進路期待 ( $r=.22, p<.01$ ), 父親人間性期待 ( $r=.36, p<.01$ ), 父親負担反応 ( $r=.73, p<.01$ )であった。

表7 相関分析の結果

		達成動機尺度			母親からの期待尺度			母親の期待反応様式			父親からの期待尺度			父親の期待の反応様式		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
達成動機	1 社会的達成欲求	-	.42**	.51**	.19**	.20**	.20**	.30**	.07	.08	.18**	.16**	.25**	.19**	.14*	.07
	2 挑戦成功欲求		-	.63**	.24**	.11	.32**	.32**	.07	.10	.23**	.01	.20**	.24**	.06	.16**
	3 個人的達成欲求			-	.30**	.13*	.16**	.35**	-.02	.03	.32**	.14*	.15**	.25**	.04	.10
母親からの期待尺度	4 母親良い子期待				-	.38**	.34**	.43**	.03	-.04	.69**	.37**	.33**	.35**	.10	.13*
	5 母親進路期待					-	.37**	.28**	.38**	-.03	.36**	.54**	.42**	.28**	.37**	-.02
	6 母親人間性期待						-	.35**	.22**	.08	.28**	.23**	.57**	.33**	.21**	.08
母親の期待反応様式	7 母親肯定反応							-	.04	.13*	.43**	.24**	.33**	.78**	.12*	.21**
	8 母親負担反応								-	-.01	.06	.22**	.36**	.14*	.73**	-.13*
	9 母親反発反応									-	.01	-.07	.08	.04	-.04	.56**
父親からの期待尺度	10 父親良い子期待										-	.55**	.47**	.48**	.18**	.27**
	11 父親進路期待											-	.51**	.33**	.42**	.09
	12 父親人間性期待												-	.34**	.50**	.12*
父親の期待反応様式	13 父親肯定反応													-	.31**	.22**
	14 父親負担反応														-	-.01
	15 父親反発反応															-

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$

母親反発反応と有意な正の相関が出たのは、父親反発反応 ( $r = .56, p < .01$ ) であった。父親良い子期待と有意な正の相関が見られたのは、父親進路期待 ( $r = .55, p < .01$ )、父親人間性期待 ( $r = .47, p < .01$ )、父親負担反応 ( $r = .18, p < .01$ )、父親反発反応 ( $r = .27, p < .01$ ) であった。

父親進路期待と有意な正の相関が見られたのは父親人間性期待 ( $r = .51, p < .01$ )、父親肯定反応 ( $r = .33, p < .01$ )、父親負担反応 ( $r = .42, p < .01$ ) であった。

父親人間性期待と有意な正の相関が見られたのは、父親肯定反応 ( $r = .34, p < .01$ )、父親負担反応 ( $r = .50, p < .01$ )、父親反発反応 ( $r = .12, p < .05$ ) であった。

父親肯定反応と有意な正の相関が出たのは父親負担反応 ( $r = .31, p < .01$ )、父親反発反応 ( $r = .22, p < .01$ ) であった。

### 第 3 節 各因子における性差の検討

達成動機尺度と父母から感じた期待尺度と父母の期待に対する反応様式の各下位尺度得点について性差があるのかを確かめるために有意水準 5% で両側検定の  $t$  検定を行った。それぞれの得点に対する結果を表 8 に示した。その結果、母親負担反応 ( $t(290) = 3.06, p < .005$ )、父親肯定反応 ( $t(290) = 2.42, p < .05$ )、父親負担反応 ( $t(290) = 3.47, p < .001$ ) いずれにおいても女性よりも男性の方が高いことが認められた。

### 第 4 節 親から感じた期待と親の期待に対する反応様式と達成動機それぞれの影響について

親から感じた期待と親の期待に対する反応様式と達成動機それぞれの影響についてとその傾向間の差異を検討するために共分散構造分析を行った。分析の手続きとして、親から感じた期待から親の期待に対する反応様式に、親の期待に対する反応様式から達成動機にパスを引き、適合度の高い組み合わせを算出した。

#### 第 1 項 母親からの期待に対するパス結果

母親からの期待に対するパス解析の結果を図 1 に示す。適合度指標は、 $CMIN = 49.382$ ,  $GFI = .963$ ,  $AGFI = .913$ ,  $RMSEA = .074$ ,  $AIC = 101.382$  であり、当てはまりの良いモデルと言える。これにより、母親良い子期待から母親肯定反応に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .36, p < .001$ )。母親進路期待から母親負担反応に有意な正の影響が見

表 8 達成動機尺度と父母から感じた期待尺度と父母の期待に対する反応様式の平均と標準偏差と男女差

尺度名	全体 ( $n = 292$ ) $M(SD)$	男性 ( $n = 148$ ) $M(SD)$	女性 ( $n = 144$ ) $M(SD)$	$t$ 値 ( $df$ )
達成動機測定尺度				
社会的達成欲求	37.98 (7.15)	38.34 (7.42)	37.60 (6.88)	0.88 (290.00)
挑戦成功欲求	31.90 (8.72)	32.64 (9.07)	31.15 (8.33)	1.45 (290.00)
個人的達成欲求	30.66 (5.89)	30.83 (6.52)	30.49 (5.20)	0.49 (290.00)
母親から感じた期待尺度				
母親良い子期待	63.92 (9.89)	63.47 (10.42)	64.40 (9.38)	-0.80 (290.00)
母親進路期待	36.10 (7.74)	36.53 (7.32)	35.65 (8.17)	0.96 (290.00)
母親人間性期待	12.37 (3.62)	12.76 (3.61)	11.97 (3.61)	1.87 (290.00)
母親の期待に対する反応様式				
母親肯定反応	45.86 (11.60)	45.82 (11.65)	45.90 (11.62)	-0.06 (290.00)
母親負担反応	43.07 (12.82)	45.31 (12.53)	40.77 (12.80)	3.06*** (290.00)
母親反発反応	13.23 (2.88)	12.99 (2.75)	13.47 (3.01)	-1.40 (290.00)
父親から感じた期待尺度				
父親良い子期待	73.91 (17.72)	73.50 (18.58)	74.33 (16.92)	-0.40 (290.00)
父親進路期待	28.06 (7.45)	27.73 (7.50)	28.40 (7.44)	-0.76 (290.00)
父親人間性期待	15.00 (4.79)	15.18 (4.72)	14.81 (4.89)	0.66 (290.00)
父親の期待に対する反応様式				
父親肯定反応	46.38 (13.79)	48.30 (13.33)	44.42 (14.06)	2.42* (290.00)
父親負担反応	41.16 (14.34)	43.99 (13.80)	38.26 (14.41)	3.47**** (290.00)
父親反発反応	10.49 (2.72)	10.25 (2.57)	10.73 (2.88)	-1.50 (290.00)

注：\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .005$ , \*\*\*\* $p < .001$  分散が異なる場合には Welch の検定を行った。

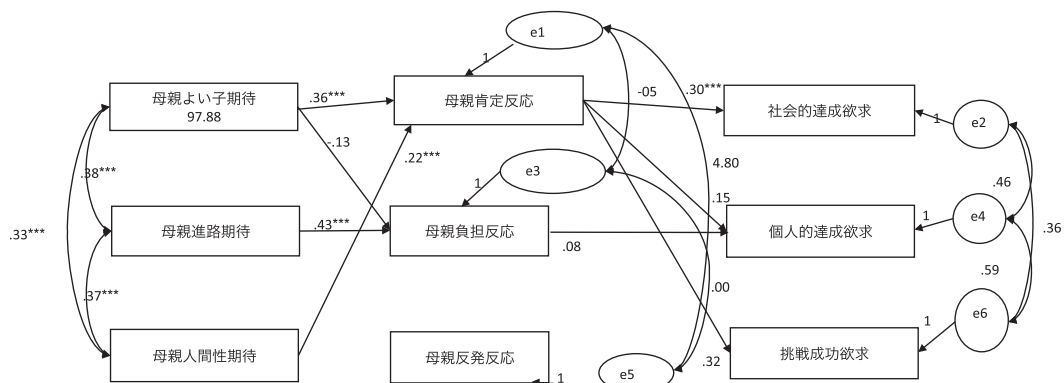


図1 パス解析結果（母親）

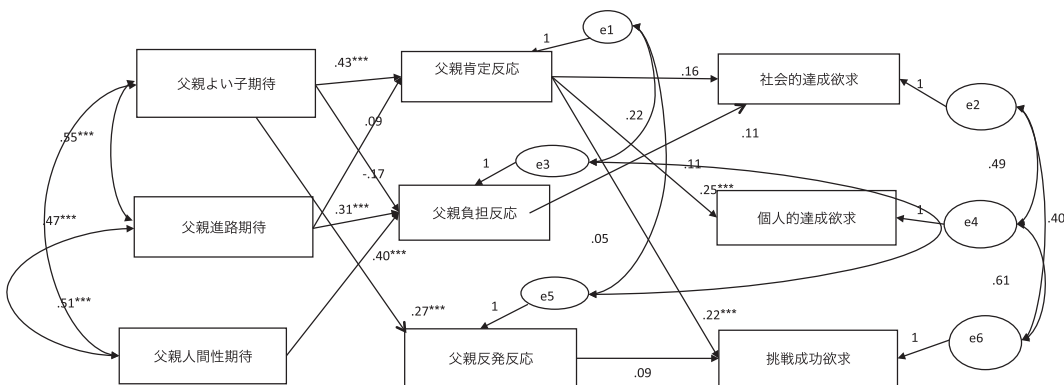


図2 パス解析結果（父親）

られた ( $\beta = .43, p < .001$ )。母親人間性期待から母親肯定反応に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .22, p < .001$ )。母親肯定反応から社会的達成欲求に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .30, p < .001$ )。なお、男女差で見たところ差が見られなかった為、全体の結果のみ記載した。

第2項 父親からの期待に対するパス結果

父親からの期待に対するパス解析の結果を図2に示す。適合度指標は、 $CMIN = 48.968, GFI = .965, AGFI = .901, RMSEA = .084, AIC = 106.968$ であり、当てはまりの良いモデルと言える。これにより、父親良い子期待から父親肯定反応に有意な正の影響が見られ ( $\beta = .43, p < .001$ )、父親反発反応に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .27, p < .001$ )。父親進路期待から父親負担反応に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .31, p < .001$ )。父親人間性期待から父親負担反応に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .40, p < .001$ )。父親肯定反応から個人的達成欲求に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .25, p < .001$ )。父親肯定反応から挑戦成功欲求に有意な正の影響が見られた ( $\beta = .22, p < .001$ )。なお、男女差で見たところ差が見られなかった為、全体の結果のみ記載した。

第4章 考察

第1節 親からの期待と期待の受け止め方と達成動機の影響について

本研究では親からの期待と子どもの受け止め方について、具体的には、人間性・進路・良い子という要素が、子どもの受け止め方（肯定・反発・負担）にどのように影響を及ぼすのかを検討した。次に、子どもの受け止め方が達成動機にどのように影響するのか、肯定的な受け止めは高い達成動機に結びつくのか否かについて検証を行った。

性差について検討したところ、男性の方が女性よりも親からの期待をより敏感に受け止めるという傾向を示した。このような結果となったのは、日本文化において、女性よりも男性の方が将来に対して求められることが多い文化を受け継いでいるためにより敏感に親からの期待を受け止める結果となったのではないかと考えられる。

父母それぞれに分けて親からの期待と期待の受け止め方が達成動機にどう影響するかについてパス解析を行っ

た。その結果、母親と父親それぞれのパスを比べたところ、母親からの人間性期待は肯定反応を示していたが父親からの人間性期待は負担反応を示していた。また、母親からの期待を肯定的に受け止めると社会的達成欲求が高くなるが、父親からの期待を肯定的に受け止めると個人的達成欲求と挑戦成功欲求が高くなるという違いがあった。このことから、母親は周りの人との関わりを求め、父親は自分自身についてや、子どもが高い地位になることなどを求め、それらを子どもが受け止めて目標に向かって取り組む、日本の文化における性役割と関係しているように考えられる。

## 第2節 今後の課題

本研究では、親からの期待と期待の受け止め方と達成動機がどのような影響を及ぼすのかを親からの期待尺度と期待に対する反応様式と達成動機尺度を用いて検討した。

今回の結果から、日本だけではなく、日本に似た文化の国、日本とは違う文化の国でこれらの結果が変わってくるのかを検討したいと考える。それにより、家族を介する臨床場面において、より効果的な介入を見出すための知見を得ることができると考える。

## 引用文献

- 安倍淳吉(1978). 犯罪の社会心理学 新曜社.
- 青野明子(2008). 学生における達成動機と生きがい及び自己肯定意識の関連 国際研究論叢, 21(3), 23-34.
- 青野明子・森津 誠(2007). 学生における達成動機と抑うつおよびソーシャル・サポートとの関連 国際研究論叢, 20(2), 87-97.
- Albulene, G. & Arif, S. (2017). Exploring the Link between Achievement Goals, Motivation, and Parental Expectations among University Students in Kosovo. *Center for Educational Policy Studies Journal*, 7(4), 147-164.
- 東 洋・大山 正・訖摩武俊・藤永 保(1978). 心理用語の基礎知識 有斐閣ブックス.
- Brain, M. W., & Resse, C. (2007). Parental influences on social anxiety: The sources of perfectionism. *Journal of the American Psychoanalytic Association*, 55, 282-285.
- 陳 品紅(2014). 1970・80年代日本の社会変動 学歴社会論に焦点を合わせて 桃山学院大学社会学論集, 48(1), 115-142
- Crystal, D. S., Chen, C., Fuligni, A. J., Stevenson, H. W., Hsu, C. C., Ko, H. J., Kitamura, S., & Kimura, S. (1994). Psychological maladjustment and academic achievement: A cross-cultural study of Japanese, Chinese, and American high school students. *Child Development*, 65, 738-753.
- 土井聖陽(1982). 達成動機の二次元説 親和的達成動機と非親和的達成動機 心理学研究, 52, 344-350
- French, E. G. (1955). Some characteristics of achievement motivation. *J. exp. Psychol.*, 50, 232-236.
- 堀野 緑(1987). 達成動機の構成因子の分析 教育心理学研究, 35(2), 148-154.
- G. R. ファンデンボス・繁榊算男・四本裕子(2013). APA 心理学大辞典 培風館
- 林 保・山内弘継(1978). 達成動機の研究 誠信書房
- 伊藤忠弘(2008). 達成行動における他者志向的動機概念の再検討 研究年報 55, 217-235.
- 伊藤忠弘(2012). 達成動機付けにおける重要な他者の果たす役割-日本と韓国の比較研究- 学習院大学東洋文化研究調査研究報告 27-36.
- 伊藤忠弘・平井 花(2014). 大学生の日常的な感謝経験および感謝された経験と他者志向的達成動機 学習院大学文学部研究年報, 159-175.
- 石田幸平・武井楨次(1984). 犯罪心理学 青少年犯罪の生活空間と類型論.
- 春日秀朗・宇都宮博(2011). 親からの期待が大学生の自尊感情に与える影響 立命館人間科学研究, 22, 45-55.
- 春日秀朗・宇都宮博・サトウタツヤ(2013). 親の期待に対する反応様式の発達的变化 立命館人間科学研究, 28, 127-136.
- 春日秀朗・宇都宮博・サトウタツヤ(2014). 親の期待認知が大学生の自己抑制行動特性及び生活満足感へ与える影響: 期待に対する反応様式に注目して 発達心理学研究, 25(2), 121-132.
- 北村美緒(2011). 枠の設定に着目した親子関係尺度作成の試み 学習院大学人文科学論集, 20, 153-169.
- Murray, H. A. (1938). *Explorations in personality*. New York: Oxford University Press. (マレー 外林大作(訳編) パーソナリティ I, II 誠信書房 1961, 1962)
- 宮本美沙子(1993). ゆとりのあるやる気を育てる 大日本図書.
- 松本恒之・渡辺恵美子(1983). 親からの期待に関する縦断的研究 東洋大学児童相談研究, 2, 35-51.
- 牧野カッコ(2005). 「子育てに不安を感じる親たちへ-少子化家族の中の育児不安-」 ミネルヴァ書房.
- 牧野カッコ・渡辺秀樹・船橋恵子(2006). 「平成16年度・17年度家庭教育に関する国際比較調査報告書」国立 女性教育会館.

- 中村 隆・土屋隆裕・前田忠彦 (2015). 「国民性の研究 第13次全国調査-2013年全国調査-」統計数理研究所 調査研究レポート No.116.
- 中村祐子・佐藤睦子 (2016). 中学生の気力と達成動機：親子関係の捉え方と学習活動との関連の検討 研究紀要「プッシュケー」15, 1-9.
- 大概奈巳 (2010). 世界の親が子どもに期待すること 牧野カツコ・渡辺秀樹・船橋恵子・中野洋恵 (編) 国際比較にみる世界の家族と子育て ミネルヴァ書房, 90-107.
- 庄司知明・藤田尚文 (2000). 子どもから見た親の期待について-親子関係診断尺度 (EICA) との関連から- 高知大学教育学部 研究報告2(9), 45-55.
- 遠山孝司 (2006). 小・中学生の親子関係, 親からの期待, 子どもの目標の関係 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 53, 37-55.
- 高木枝美子 (2006). 高校生から見た親の期待：親の伝え方・子どもの感じかた 教育方法の研究, 9, 49-56
- 田村喜代 (1967). 親子関係にあらわれた役割期待と役割行動 小山 隆 (編) 現代家族の役割構造 - 夫婦・親子の期待と現実 培風館, 230-238.
- 上淵 寿 (2012). キーワード動機づけ心理学 金子書房, 56-58.
- 渡部雪子・新井邦次郎・濱口佳和 (2012). 中学生における親の期待の受け止め方と適応との関連 教育心理学研究, 60, 15-27.
- 『読売新聞』1885年8月14日～1885年8月16日 朝刊「玉に瑕 親の心子知らず, 玉の輿にとの父母の期待を裏切った娘」
- 『毎日新聞』1976年2月3日 夕刊「日比谷高生が自殺」
- 『毎日新聞』1989年3月5日 朝刊「長期無気力・引きこもり症, 長男に多発」(筑波大グループ調査)